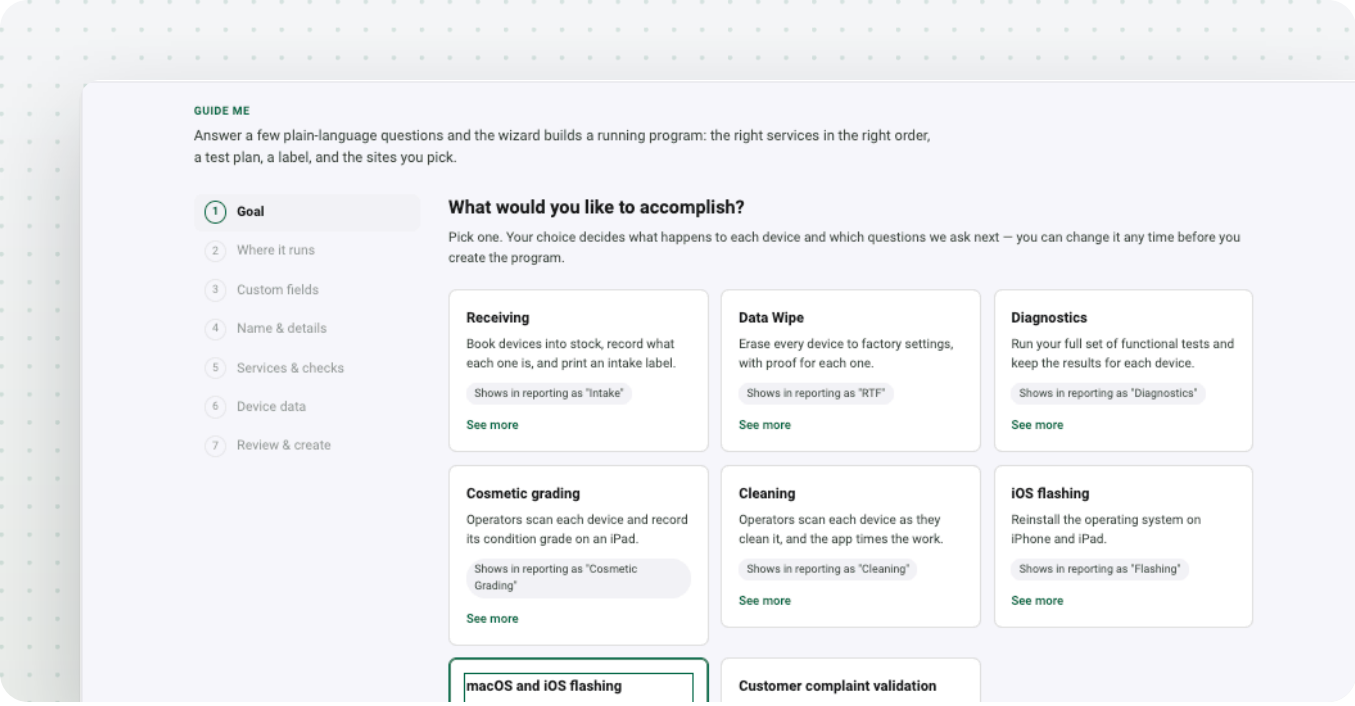
CONTROL CENTER

デバイスの処理内容は一度決めるだけ。すべてのステーションがそれに従います。

プログラム、テストスイート、失敗コード、カスタムフィールド、SKU、拠点を定義し、すべての結果が集約される Web プラットフォームです。ブラウザ上で動作し、お手持ちの PC や Mac で利用できます。専用ハードウェアは不要です。



対象読者
デバイス処理事業者の運用・IT・コンプライアンス責任者

設定対象
Android · iOS · macOS · Linux のテストスイート

ウェブ
assetscience.com

概要一覧

購入検討者が必ず尋ねる 8 つの質問に、ポータルの範囲でお答えします。

Control Center 自体はテストも消去も実行しません。それらを設定し、設定内容をステーションに引き渡し、実行結果を記録します。答えが「ここではない」場合は、該当する製品名を明示します。

証明書 — はい

デバイスごとにここで生成：公開用、消去、診断、部品チェックの各証明書を PDF として、また verified.assetscience.com で IMEI またはシリアル番号から公開 Web 照会として提供します。証明書には、お客様が選んだプロセス名がそのまま印字されます。

ADISA 認証 — 該当なし

いいえ。 Control Center は消去を行わないため、消去に関する認証は付随しません。ADISA 保証レベル 4 を取得しているのは **Pro-Diagnostics** および **MacRestore**であり、Control Center はこれらのステーション製品の消去を設定し、記録します。

消去の方式 — ここでは実行しません

ウィザードで作成したデータ消去プログラムは、コンテンツ消去、フラッシング、または MacRestore のステップをステーションのスクリプトに追加します。方式、結果、証明書はステーションから返され、デバイスに紐づけて記録されます。

ガイド付きユーザーテスト — ここではありません

ガイド付きテストはステーションのアプリで実行されます。Control Center が決めるのは **どのテストか**、 **どの順序か**、 **どのパラメーターか** および失敗コード、さらにスイートを fail fast にするか、自動開始するか、画面の向きを固定するかです。

テストの種類 — 133 · 83 · 23 · 25

プラットフォームごとに 1 つのテストライブラリ：Android 133、iOS 83、Mac 23、PC 25 のテストを備え、いずれもパラメーター単位、失敗コードセット単位、機種単位で設定でき、複製して独自のテスト構成にできます。

主な機能 — 4

設定ウィザード により、平易な言葉で表した目的がそのまま稼働するプログラムになります。 **お客様独自のデータモデル**：カスタムフィールド、SKU、必須識別子。 **ワークフローマネージャー** でステーションをまたいで管理。 **自動化フロー** により、レポートに渡る前にレコードを補完します。

対応プラットフォーム — ウェブ

任意の PC または Mac 上の Chrome または Edge で動作し、オペレーター向けに 7 言語に対応します。設定できるテストスイートは **Android、iOS、macOS、Linux**。ステーションは既にお持ちの Windows PC と Mac で動作します。

データ分析と API — REST

すべてのレコードには、実行時の拠点、デプロイメント、プログラム、サービススイート、テストスイート、オペレーター、ワークステーションが記録されます。ダッシュボード、デバイス履歴、 **REST API** 、CSV／Excel エクスポートから参照できます。

27
プラットフォームモジュール
1 つの Control Center

8
プログラムの目的
入庫から RMA まで、平易な言葉で

4
テストプラットフォーム
Android · iOS · macOS · Linux

7
言語
EN · ES · FR · DE · IT · JA · NL

オンボーディング · 設定ウィザード

プログラムはスクリプトではなく、平易な言葉で表した目的から始まります。

いくつかの質問に答えるだけで、ウィザードが稼働するプログラムを構築します。適切なサービスを適切な順序で並べ、テスト計画、ラベル、実行拠点までまとめます。8 つの目的で全範囲をカバーします。

入庫受付

デバイスを在庫に登録し、それぞれが何であるかを記録し、入庫ラベルを印刷します。

レポート上は「Intake」

データ消去

すべてのデバイスを工場出荷時の状態に消去し、1 台ごとに証跡を残します。

レポート上は「RTF」

診断

機能テスト一式を実行し、デバイスごとに結果を保持します。

レポート上は「Diagnostics」

外観グレーディング

オペレーターが各デバイスをスキャンし、iPad で状態グレードを記録します。

レポート上は「Cosmetic Grading」

清掃

オペレーターが清掃しながら各デバイスをスキャンし、アプリが作業時間を計測します。

レポート上は「Cleaning」

iOS フラッシング

Pro-Diagnostic ステーションで iPhone と iPad の OS を再インストールします。

レポート上は「Flashing」

macOS と iOS のフラッシング

MacRestore を実行する Mac ステーションで、Mac を含む Apple ハードウェアに再インストールします。

レポート上は「Flashing」

顧客申告の検証

返却されたデバイスに、顧客が申告した不具合が実際にあるかを確認します。

レポート上は「Customer Complaint Validation」

1. **目的** — 8 つから 1 つを選択。
2. **実行場所** — 拠点とデプロイメント。
3. **カスタムフィールド** — オペレーターが記録する項目。
4. **名称と詳細** — プロセス名とフロー。
5. **サービスとチェック** — 部品チェック、MDM、ERP。
6. **デバイスデータ** — 識別子とフィールド。
7. **確認と作成** — プログラムが稼働します。

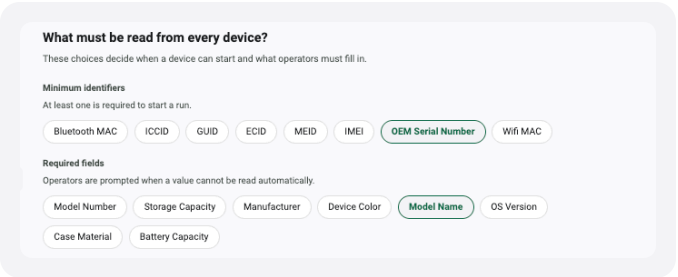


図1 設定ウィザード → デバイスデータ。受領扱いとするために各デバイスから取得すべき項目と、値を読み取れない場合にオペレーターへ入力を求めるフィールドを指定します。

必須識別子。 実行の開始には、最低 1 つの識別子が必要です：IMEI、MEID、ECID、GUID、ICCID、OEM シリアル番号、Wi-Fi MAC、Bluetooth MAC のいずれかです。ステーションがデバイスから読み取ります。いずれも取得できないデバイスでは実行を開始できません。

必須フィールド。 モデル番号、モデル名、メーカー、ストレージ容量、デバイスの色、OS バージョン、筐体素材、バッテリー容量は、それぞれ必須に設定できます。オペレーターに入力を求めるのは、値を自動取得できない場合のみです。ウィザードが書き込む内容はすべて、後から Program Management と Test Suite Management で開けます。

プラットフォーム別のテスト設定

4 つのプラットフォーム、それぞれ 1 つのライブラリ、すべてのパラメーターを自由に設定。

テストスイートは、1 つのプラットフォーム向けのテストを順序付けた一覧と、デバイス上での実行方法に関するいくつかのルールで構成されます。プログラムが参照するスイートがステーションで実行される内容です。スイートを編集すれば、それを使うすべてのスクリプトが変わります。

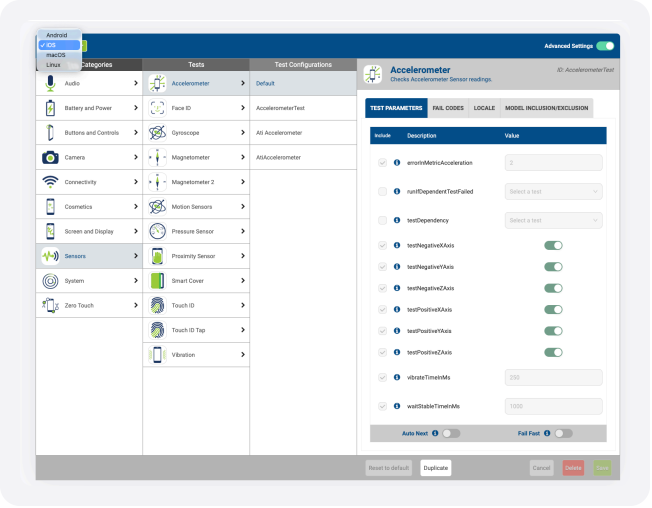


図2 Advanced → Test Configurations、プラットフォーム選択を開いた状態：Android、iOS、macOS、Linux。iOS の加速度センサー定義と、そのパラメーター、失敗コード、ロケール、対象機種の各タブ。

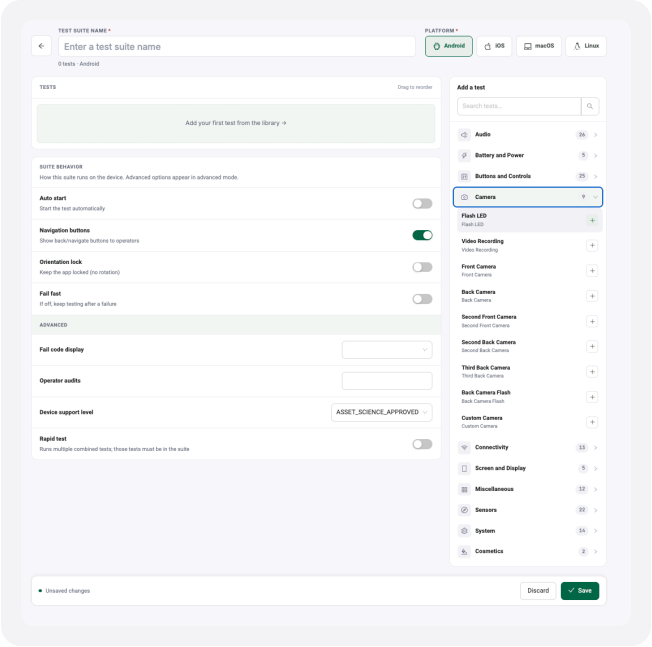


図3 Manage → Test Suite Management、新規 Android スイート。右側のライブラリには各カテゴリーと件数が並び、左側でテストをドラッグして順序を決めます。

スイートの挙動。 4 つのトグルで、スイートのデバイス上での動作が決まります：自動開始、オペレーター向けのナビゲーションボタン、画面の向きの固定、そして最初の失敗でスイートを停止するか継続するかを決める fail fast です。詳細モードでは、失敗コードの表示、0 から 5 までのオペレーター監査、デバイスのサポートレベル、複数のテストを 1 回でまとめて実行する rapid test が追加されます。

カスタムテスト。 各テストには定義があり、含める／除外するパラメーターと、設定できる値があります：しきい値、タイミング、テストする軸、先に合格していなければならない依存テストなどです。定義を複製して変更すれば、そのコピーが独自のテスト構成となり、元の定義に手を加えずに任意のスイートへ差し替えられます。

機種単位の対象指定。 定義の対象機種・除外機種のリストにより、適用対象外のハードウェアではテストが実行されません。スイートが除外した機種はスキップとして記録され、失敗にはなりません。ロケールタブには言語ごとのオペレーター向け説明が入ります。

失敗コード。 失敗カテゴリーには優先度があり、失敗コードには説明、fail fast フラグ、「デスクトップに表示」フラグがあります。各コードは 1 つ以上のテストに関連付けられるため、オペレーターには失敗したテストのコードだけが表示されます。失敗コードセットは構成ごとに選択します。

カスタムフィールド · SKU マネージャー · SKU グループ

当社ではなく、お客様のデータモデルです。

カスタムフィールド、SKU グループ、必須識別子は顧客ごとに定義します。識別子と型は作成後にロックされるため、過去のレコードも読み取れます。表示名は言語ごとにローカライズされます。

カスタムフィールド。 型は 3 種類：範囲を持つ数値、自由入力の文字列、選択肢が固定されたリストです。フィールドはログイン時に表示してバッチごとに 1 回設定するか、プロセス終了時に表示してデバイスごとに入力させます。右のテナントでは 21 件を使用しています：バッチ ID、通信事業者、デバイスサイズ、素材、管理者 ID。

ローカライズ。 識別子は保存されるキーであり変更されないため、2026 年に名称を変更したフィールドも 2021 年のレコードで読み取れます。表示名は言語ごとに入力し、リスト項目は 1 つの保存値と言語ごとのラベルを保持します。2 人のオペレーターが別々の名称で同じ値を選んでも、レポート上は 1 つのフィールドです。

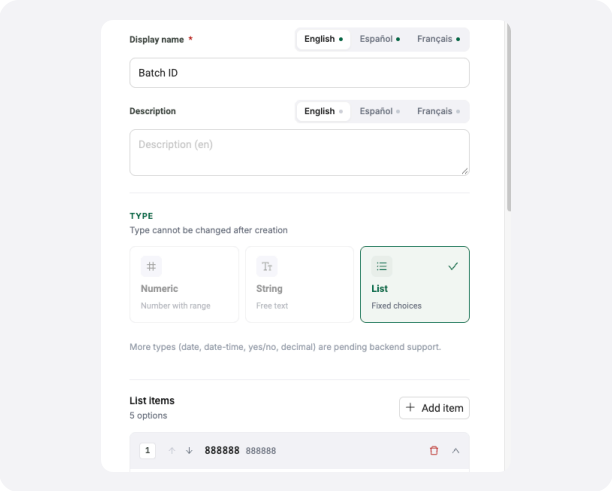


図4 Custom Fields → 「Batch ID」の編集。言語ごとの表示名、作成後にロックされた型、保存値とローカライズされたラベルを持つリスト項目。

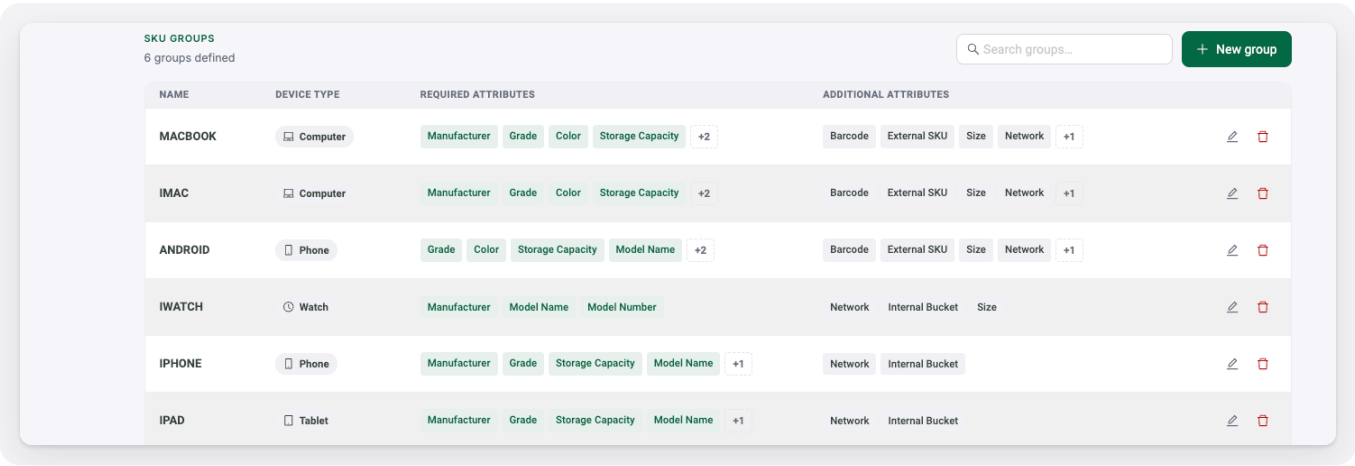


図5 Shop Floor Management → SKU Groups。6 つのデバイス種別グループと、SKU が必ず持つべき属性および任意の属性。

SKU グループ

グループは、デバイス種別の構築に必要な項目を決めます。

デバイス種別ごとに 1 グループ：コンピューター、電話、タブレット、ウォッチ。必須属性はメーカー、グレード、色、ストレージ、モデルなど、追加属性はバーコードや外部 SKU などです。

SKU マネージャー

数千件の SKU を、リストとしてインポート・エクスポート。

テンプレートをダウンロードし、リストをインポートし、再びエクスポートできます。各 SKU はグループ名を持ち、属性が入力されるため、完成したレコードは ERP が認識する SKU に対応します。上のテナントには 1,846 件があります。

プロセス名 · プロセスフロー · ワークフローマネージャー

1つのレコードが1つのワークフローを進み、ステーションは何台でも構いません。

1台のステーションで全工程を実行することも、ワークフローマネージャーで複数に分けることもできます。結合セッションでステーションをまたぐ結果が1ページにまとまり、4つの作業台で受領・テスト・消去・グレーディングされたデバイスの履歴が1本になります。

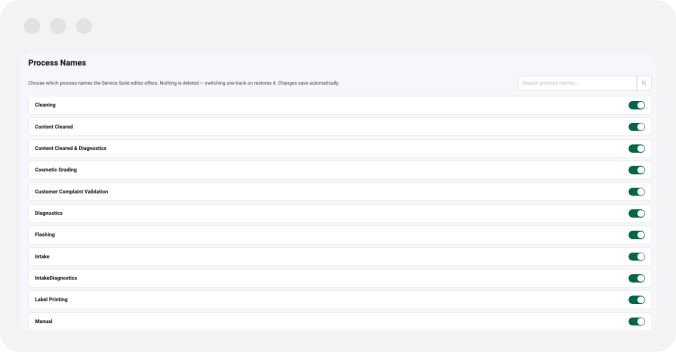


図6 Manage → Operation Management → Process Names。サービススイートエディターで選べる名称をオンにします。削除は行われず、再度オンにすれば復元されます。

プロセス名 は、実行が分類される名称です：Intake、Diagnostics、RTF、Content Cleared、Content Cleared & Diagnostics、Cosmetic Grading、Cleaning、Flashing、Customer Complaint Validation、Repair Depot、Label Printing、Manual。名称は顧客が選んでサービススイートに記載するもので、公開証明書、スキャンステーション、すべてのエクスポートに印字されます。

プロセスフロー は、デバイスが業務内で通る経路です。各サービススイートが1つを参照します。フローは設定ウィザード、レポート、データ収集、下流の現場システムや ERP に供給されるため、追加して移行するもので、名称変更はしません。

プログラムはデプロイメントに、デプロイメントは拠点に属します。 デプロイメントは拠点内のラインまたは部門で、独自のプログラム、カスタムフィールド、シフトを持ちます。1つのプログラムを複数のデプロイメントで実行でき、レコードには 3 つの名称すべてが残ります。

各要素の関係

用語	意味	設定場所
拠点	タイムゾーン、チーム、メンバー、監査レベルを持つサイト。	Operation Management
デプロイメント	拠点内のラインまたは部門。1つ以上のプログラムを実行し、独自のシフトとカスタムフィールドを持ちます。	Operation Management
プログラム	保存される内容。ステーションが実行するスクリプト、失敗コードセット、表示する識別子を保持します。	設定ウィザード · Program Management
スクリプト	サービススイート。ステーションがデバイスに順に実行する処理：識別子、GSMA チェック、診断、消去、ラベル。診断ステップでテストスイートを指定します（Android 用と iOS 用）。	Program Management
テストスイート	1つのプラットフォーム向けのテスト順序と、スイートの挙動。	Test Suite Management

ワークステーション管理 · ラベル印刷

お手持ちの PC、Mac、Zebra で。当社から購入いただくものはありません。

ステーションとは、Pro-Diagnostics を実行し、お客様のテナントに登録された Windows PC または Mac です。Control Center は全ステーションとそのバージョン、最終確認時刻を表示し、ステーションと同じラベルを印刷します。

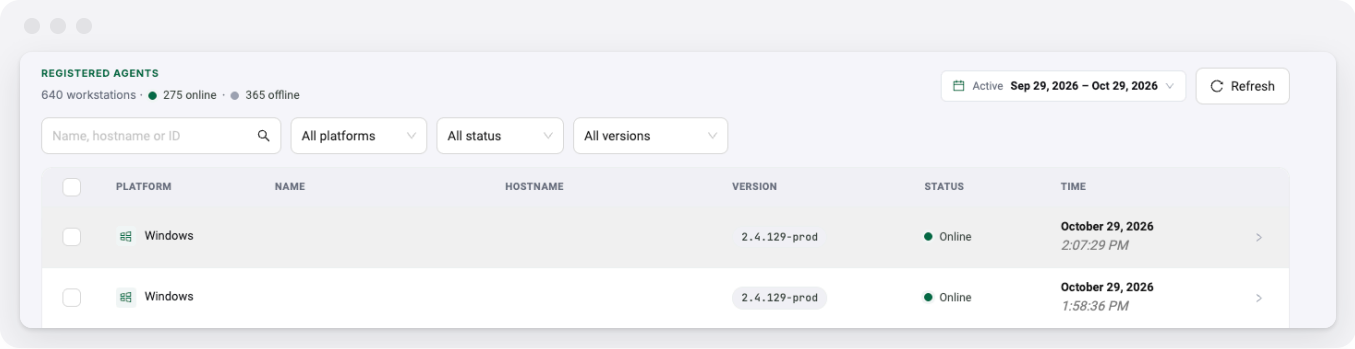


図7 IT Support → Workstation Management → 登録エージェント。このテナントには 640 台のワークステーションがあり、275 台がオンラインです。プラットフォーム、ステータス、バージョンで絞り込めます。

ワークステーション。 サインインした各ステーションは登録エージェントとなり、プラットフォーム、ソフトウェアバージョン、オンライン／オフライン状態、最終確認時刻を持ちます。バージョンで絞り込めば、旧ビルドのままの作業台がわかります。アプライアンスも、ドングルも、当社のシリアル番号に紐づくライセンスもありません。

ラベルデザイナー。 ミリメートル単位の自由配置キャンバスです。テキスト、データフィールド、バーコード、QR コード、画像をラベル上にドラッグし、IMEI、モデル、グレードなどの記録値に紐づけると、プリンター言語がその場で更新されます。既存のテンプレートは複製して編集できます。

ラベル印刷。 CSV またはレポートのエクスポートから、Pro-Diagnostics と同じラベルライブラリでバッチ印刷します。現場とバックオフィスで同一のラベルが印刷されます。ファイルはブラウザ内で読み込まれ、アップロードされません。

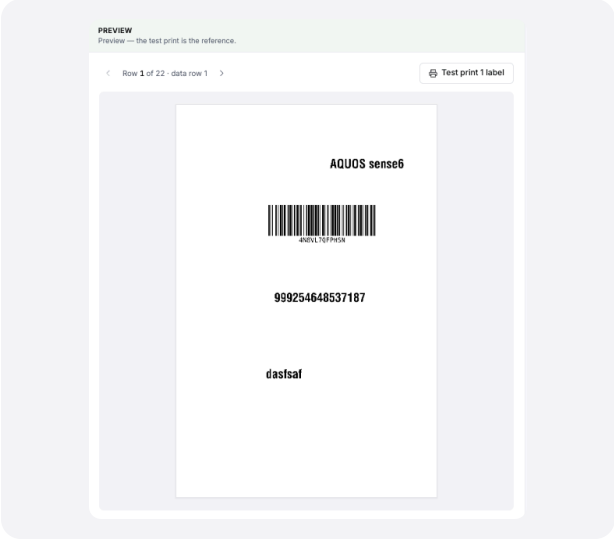


図8 Shop Floor Management → Label Printing → 処理とプレビュー。レポートのエクスポート 22 行のうち 1 行目で、モデル、バーコード、IMEI がラベルに紐づいています。識別子は架空です。

1 **プリンター**
Zebra、またはそのコンピューター上の任意のプリンター。

2 **ラベル**
共有ライブラリ内の有効な任意のラベル。

3 **データ**
CSV または自動マッピングのレポートエクスポート。

4 **チェック**
フィールドを対応付け、行を選び、1 件試し印刷。

5 **印刷**
1 ジョブ 10,000 行、1 行 1 〜 20 部。

自動化フロー · 連携

お客様自身が書くルールを、レポートに渡る前のすべてのレコードに適用します。

フローは、トリガー（IF）と順序付けられたアクション一覧（THEN）で構成されます。フローは順に評価され、最初に一致したものが適用されるため、1 つのレコードを処理するフローは必ず 1 つです。

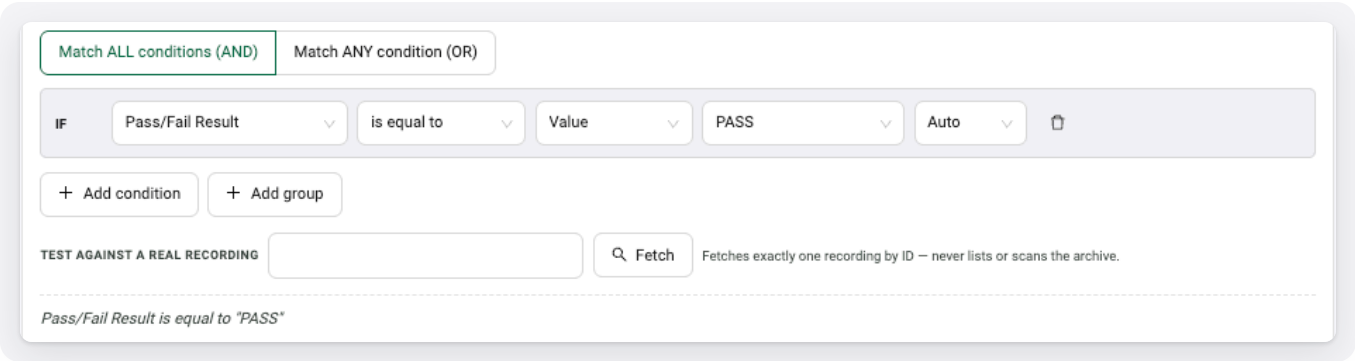


図9 Shop Floor Management → Automation → Edit Automation Flow の IF パネル。条件は AND または OR で組み合わせ、1 階層までネストできます。テスターは ID で実レコードを 1 件取得し、トリガーが一致するかを表示します。

フローでできること

更新、追加、呼び出し、分岐。

リテラル値または他のフィールドの値でフィールドを上書きします。独自のカスタムデータを追加します。HTTPS で自社の Web サービスを呼び出し（シークレットは書き込み専用で保存）、応答を取り込みます。IF、ELSE IF、ELSE で分岐します。

フローが決して行わないこと

データの喪失や、変更の隠蔽。

レコードは到着時に確実に書き込まれ、フローが終了するまでレポートには出しません。すべての変更は、フロー名、元の値、新しい値とともに記録されます。恒久的に失敗したフローは、レコードにフラグを付けて解放するか、担当者が解放するまでブロックします。

運用

エンジンの切り替え、実行ログ、失敗。

テナントごとのエンジンスイッチは既定でオフで、管理者がオンにするまで何も実行されません。実行ログは 1 回の実行につき 1 行で、フィールドの変更内容と Web サービス呼び出しを記録します。失敗はエラー内容とともに保留され、Release で解放します。

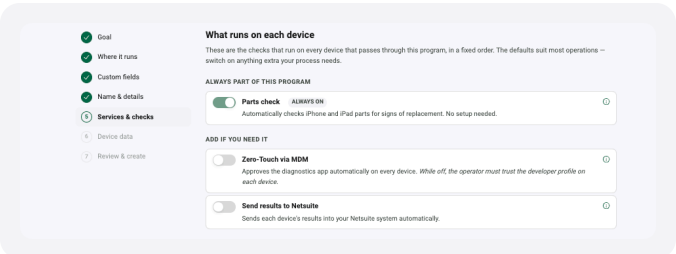


図10 設定ウィザード → サービスとチェック。部品チェックは常に有効です。MDM 経由の Zero-Touch と NetSuite への結果送信はプログラムごとに有効化します。

NetSuite。 プログラム上のトグル 1 つで、各デバイスの結果が完了次第 NetSuite へ送信されます。エクスポートもスケジュールも不要です。

MDM 経由の Zero-Touch。 すべてのデバイスで診断アプリを自動承認します。オフの場合、オペレーターが各デバイスで開発者プロファイルを手動で信頼します。

API キー。 テナント、拠点、単一デプロイメントにスコープを限定したベアラートークンを使う REST API です。ある拠点が別の拠点を読み取ることはできません。レコードは CSV、Excel、JSON でもエクスポートできます。

ロールとアクセス · レポートへの引き渡し

各ユーザーに見えるのは、自分の拠点と自分のモジュールだけです。

アクセスはロールとページ権限で決まり、選択された顧客と拠点にスコープが限定されます。Asset Science のスタッフは自身のロールで操作し、監査ログに残ります。お客様のロールを使うことはありません。

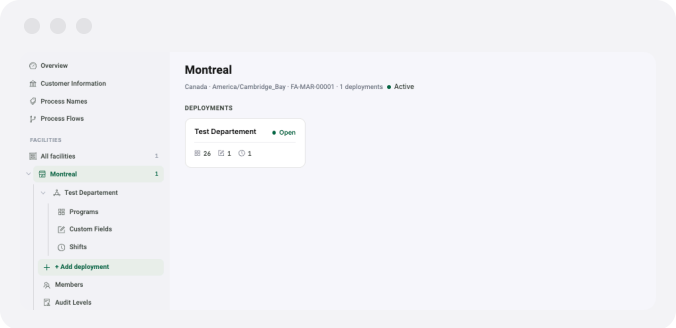


図11 Operation Management → Facility。プログラム、カスタムフィールド、シフトを持つデプロイメント 1 件。メンバー、チーム、監査レベルは拠点に紐づきます。

ロール	できること
管理者	顧客内のすべてのモジュール：プログラム、スイート、失敗コード、フィールド、SKU、ユーザー、自動化、ラベルライブラリ、全ユーザーの印刷ログ。
オペレーター	現場向けモジュール：デバイススキャン、共有マッピングモデルを使うラベル印刷、自身の印刷ログ、デバイス履歴。
レポート	読み取り専用のレポート、ダッシュボード、デバイス履歴、エクスポート、スケジュール。
ページ権限	各モジュールは個別の権限であるため、管理者はユーザー管理を渡さずにテストスイートだけを任せられます。

基本モードと詳細モード。 ウィザード、スキャン、レポートだけを使うユーザーは基本モードに切り替えれば、詳細モジュールがサイドバーから消えます。設定を担当する人は、トグル 1 つで全機能に戻れます。

複数拠点。 各ページ上部の拠点セレクターが、ダッシュボード、レポート、デバイス検索のスコープを決めます。別の顧客に属するデバイスは、存在しないデバイスとまったく同じに見えます。

引き渡し。 実行は 1 件のレコードとして到着します。デバイス履歴には、失敗コード付きのテスト、バッテリー、各サービスの所要時間と実行時間に占める割合、さらに実行時の構成（拠点、デプロイメント、プログラム、サービススイート、テストスイート、ソフトウェアバージョン、ワークステーション）が表示されます。サマリービューはデバイスの全実行を統合します。そこから先は Data & Reporting Platform が引き継ぎます：ダッシュボード、オペレーター監査、スケジュールされたエクスポート、REST API。

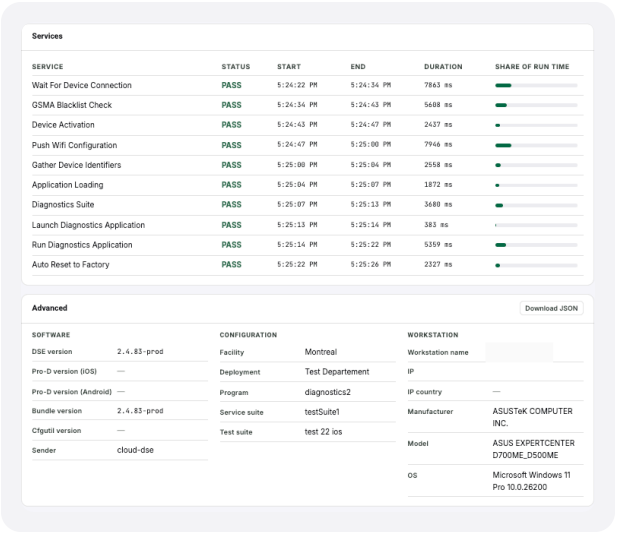


図12 Reporting → Device History の Services と Advanced。各サービスの所要時間と、拠点、デプロイメント、プログラム、サービススイート、テストスイートを示すレコードの構成ブロック。ワークステーション名と IP は伏せています。

正直な適用範囲

Control Center は設定と記録を行います。テストと消去はステーションが行います。

ポータル内でテストは実行されず、デバイスの消去も行われません。ADISA 保証レベル 4 が適用されるのは Pro-Diagnostics と MacRestore であり、Control Center はこれらステーション製品の作業を定義し、その結果を証明します。ロックは報告するのみで、解除も回避も行いません。

今週、最初のプログラムを作成しましょう。

無料トライアルを開始し、設定ウィザードを実行して、作成されたプログラムで
拠点のステーションを稼働させてください。専用ハードウェアは不要です。

無料トライアル
onboarding.assetscience.com

公開証明書
verified.assetscience.com/verify

ウェブ
assetscience.com

© 2026 Asset Science. スクリーンショットは本番ビルドのものです。表示されているデバイス識別子、ワークステーション名、オペレーター名、顧客データは架空のものか伏せています。製品名および商標は各権利者に帰属します。